

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-139	A-169	17-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）			
National Alcohol Survey of households in Trinidad and Tobago (NASHTT): Alcohol use in households. トリニダード・トバゴ共和国におけるアルコール全国調査結果について			
執筆者			
Maharaj RG, Motilal MS, Babwah T, Nunes P, Brathwaite R, Legall G, Reid SD, Canavan ME, Bradley EH.			
掲載誌			
BMC Public Health. 2017 Apr 20;17(1):347. doi: 10.1186/s12889-017-4266-z.			
キーワード			PMID
トリニダード・トバゴ共和国、アルコール、世帯内の関連、雇用問題			28427364
要 旨			
目的： トリニダード・トバゴ共和国におけるアルコール使用状況と、心理的、社会的、または身体的な問題との関連を明らかにする。			
方法： 同国全域の 1837 世帯を対象とし、世帯単位での面接調査を実施した。1 年以内のアルコール摂取・大量機会飲酒の有無と、健康・社会的問題の関連について、多変量ロジスティック回帰分析を用いて検討した。			
結果： 1,502 世帯中（回答率 82%）、アルコール使用世帯は全世帯の 64%であり、高所得で教育歴の高い世帯が多かった。アルコール使用世帯のうち 57%から大量機会飲酒有と報告された。また、アルコール使用世帯では、その他世帯に比べて世帯構成員の病気、アルコール関連問題、子どもの問題行動や反社会的行動が多かった。被雇用者がいる世帯のうち、アルコール使用世帯では病気欠勤がその他世帯の約 1.9 倍、仕事関連の悩みありが 2.9 倍であることが示された。また、大量機会飲酒が報告された世帯では、生活習慣病（1.6 倍）、夫婦関係の問題（2.2 倍）、世帯内の緊張関係（2.1 倍）、浮気（4.1 倍）、子どもの問題行動（3.1 倍）、交通違反（2.7 倍）等の問題が多いことが示された。			
結論： トリニダード・トバゴ共和国におけるアルコール使用状況の初めての調査において、約 2/3 の世帯でアルコール使用があり、アルコール使用や大量機会飲酒が心理的、社会的、身体的問題と関連していることが示された。			